第55回 日本整形外科学会
骨・軟部腫瘍学術集会
Webセミナー 7

TEIJIN
Human Chemistry, Human Solutions

座長

独立行政法人国立病院機構
東京医療センター
骨・軟部腫瘍センター長

森岡 秀夫 先生

演者

国立研究開発法人
国立がん研究センター　中央病院
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科　医長

小林 英介 先生

視聴期間

7/16（土）～ 8/31（水）

当セミナーはオンデマンド配信講座となっております。
詳しくは学会HPをご確認ください。

本セミナーでは日本整形外科学会教育研修講演単位を取得することができます。

■認定単位：日整会専門医単位（N）1単位
■必須分野：[5] 骨・軟部腫瘍

共催：第55回日本整形外科学会　骨・軟部腫瘍学術集会 / 帝人ナカシマメディカル株式会社

第55回 日本整形外科学会
骨・軟部腫瘍学術集会
Webセミナー 7

良性骨腫瘍の診断と治療

国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科　医長

小林 英介 先生

整形外科の日常臨床で良性骨腫瘍に遭遇する機会は少なくない．本邦の令和元年全国骨腫瘍登録一覧では過去15年に登録された26000余りの原発性骨腫瘍において良性骨腫瘍が全体の約70％を占めている．無症状のため診療において偶発的に見つかることがあり，膝のMRIを撮影すると数％に軟骨性腫瘍が見つかるという報告もある．加えて非登録良性骨腫瘍例まで加味すると，その実数はさらに多いと予想される．このため骨・軟部腫瘍を専門としない整形外科医が初期診療を担う機会が多く，すべての整形外科医に良性骨腫瘍に対する鑑別診断や治療方針に関する知識が求められる．

近年の骨・軟部腫瘍領域における分子生物学的な診断の進歩は目覚ましい．良性骨腫瘍もその例外ではなく，かつていわゆる腫瘍類似病変と考えられた病態においても骨腫瘍としての分子遺伝学的な診断の裏付けが得られるようになってきた．2020年に改訂されたWHO分類では良性骨腫瘍として診断カテゴリーが変更された腫瘍が散見される．良性骨腫瘍の治療は経過観察のみでよいことも多いが，疼痛などの症状を呈する場合や骨折のリスクを有する場合に外科的治療が考慮される．術式は原発性悪性骨腫瘍の手術と大きく異なり，腫瘍の単純切除や掻爬術が行われる．この際に生じる骨欠損に何らかの補填が必要な場合，セメントや移植骨が用いられることが多い．移植骨としては自家骨，同種骨，人工骨などが選択され，それぞれの特性を症例ごとに勘案しながら使用される．特に人工骨においては骨形成や骨伝導能を持つものから，近年は骨形成を誘導するタンパク質を含有するものまで幅広く使用できるようになってきた．

本セミナーでは日常臨床で遭遇することが多い良性骨腫瘍における鑑別のピットフォールや最近の診断や治療の実際について紹介する．すべての整形外科医の明日からの診療に役立つものとなることを期待したい．

販売業者

TEIJIN

帝人ナカシマメディカル株式会社
〒709-0625 岡山市東区上道北方688-1
TEL. 086-279-6278　FAX. 086-279-9510